

建築士
おおいた

秋季号

2025 NO 135



公益社団法人 大分県建築士会

CONTENTS

01 第10回おおいた建築セミナーin大分のご案内	大分支部	甲斐 啓大
02 公益事業の成果	大分支部	上野かおり
	日田支部	櫻木弘三郎
	宇佐支部	西胤 和弘
	津久見支部	竹田 光徳
06 九州ブロック建築士の集い福岡大会に参加して	別府支部	山下 公愛
07 建築女子会in別府に参加して	大分支部	高橋 美香
09 建築士サロン九州交流会の取組について	青年女性委員会	河野 功寛
10 全国青年委員長会議	大分支部	甲斐 啓大
12 全国女性建築士連絡協議会 in 山形に参加して	大分支部	渕 智子
14 第33回全国まちづくり会議inまつえに参加して	宇佐支部	緑川 誠子
15 最澄紀行1「靈仙寺跡・修学院と栄西禪師顕彰茶会」	廣瀬資料館	園田 大
17 インフォメーション(支部便り)	佐伯支部	富松 誠
	中津支部	千原 仁
	臼杵支部	合澤 浩司
	別府支部	中原 健
21 我が街の建築士紹介	大分支部	安達 和輝
県央	大分支部	池邊 慶太
	別府支部	塩出 巧基
22 マイワーク	佐伯支部	井上 一則
県南	臼杵支部	高野 晃
	津久見支部	高瀬 幸伸
	豊後大野支部	高野 幸雄
26 マイベストブック	日田支部	熊谷 高則
県北	中津支部	日高 雄介
	高田支部	後藤 憲二
	玖珠支部	梅木 恵美
28 近況トピックス	佐伯支部	福井 大輔
	玖珠支部	瀧石 雅一
31 マーボーの旅先日記	顧問	井上 正文
35 事務局だより	大分県建築士会事務局	



■ 表紙説明 ■

表紙のイラスト

岩田学園

作者: 大分支部 板井 利世

第10回おおいた建築セミナーin大分開催!!

■開催日時 **2025年12月13日(土)** ※10月頃に募集予定

○本大会 **13:30～** ホルトホール300大会議室（大分県大分市金池南1丁目5-1）
○懇親会 **18:00～** oita yukai～ゆかい～（大分市中央町3丁目3-19）
※時間は変更になることがあります

■テーマ **「50 50」** (にごじゅう)

■趣 旨 「にごじゅう」は、大分弁で「誰でも知っているあたり前のこと」という意味があります。これまでの歩みを共にした先輩方と、これからを担う若い世代が交流し、世代を超えて「あたり前」を語り合える世代間交流の場にしたい、そんな想いをこのテーマに込めました。大分支部に県下で初めて青年部が発足したのは1975年。あれから50年の間に、私たちを取り巻く状況は大きく変化しました。高度成長から少子高齢化社会へ、生活様式の多様化、環境問題への意識の高まり、そして技術革新による急速な社会の変化。そうした過去50年を振り返り、さらに50年先の未来に思いを馳せながら、建築士会の「今」を考える場としたいと思います。

■内 容 (内容は変わることがあります。現在、絶賛企画中です!!)

第一分科会 様々なゲストや建築士会メンバーによるクロストーク

(平成の大合併から20年。当時の話やその後の展望、遊休不動産の現在、歴代青年委員長のクロストークなどを開催予定)

第二分科会 西大分まち歩き

(ホーバーターミナルの見学会、西大分の歴史的まち並みやカフェを散策予定)

第三分科会 クラフトビールと大分市街地まち歩き

(クラフトビールを飲みながら大分市街地の昔と今がわかるまち歩きの予定)



令和6年度 公益事業の成果

大分支部

石井先生の『大江宏の建築観』に参加して

大分支部 上野 かおり

石井先生のご講演『大江宏の建築観』に参加し、大江宏さんの「化粧と野物（のもの）」という考え方が、建築をつくる上で非常に重要な視点であることに気づかされました。「化粧」とは、人の手が加えられた美しさを指し、「野物」とは自然素材が持つ力強さや荒々しさを意味するそうです。大江宏さんは、この二つを対立するものと捉えるのではなく、どちらも尊重し、調和させながら建築に取り入れていた点が印象的でした。



特に能舞台などの伝統建築では、柱や梁にあえて過剰な加工を施さず、木そのものが持つ表情を活かすことで、空間に深みが生まれているというお話を心に残りました。これは「野物」を尊重する好例であり、その上に必要な「化粧」を施すことで、品格ある建築空間が実現されていると感じました。

また、大江宏さんは若い頃から建築の英才教育を受けて育った方であり、その背景が彼の作品に深みと確かさを与えていたのだと思います。

端正な顔立ちをされた方でもあり、その知性と美

意識は、作品の佇まいにも表れているように感じました。見た目の美しさだけでなく、素材を見極める目と、建築に対する芯の通った哲学が、多くの人を惹きつける理由のひとつなのかもしれません。

石井先生は「化粧と野物」の思想を、丹下健三の建築との対比を通じて説明してくださいました。たとえば、大江宏さんの建築が「化粧」とするなら、丹下健三の建築は「野物」と言える、といった視点は非常に興味深く、建築を捉える新たな切り口として大きな発見でした。

中でも、印象に残っているのは「国立能楽堂」です。屋根のフォルムが非常に美しく、その演出にはアルミルーバーが用いられているとのこと。実際に防水機能を持つ屋根は別にあり、その上にルーバーを重ねて配置することで、照りや反りといった美しい曲線が生み出されているそうです。写真で見てもその屋根は本当に美しく、実物をぜひこの目で見てみたいと思いました。東京都渋谷区千駄ヶ谷にあるこの建物を訪れるのが、これから楽しみの一つになりました。



令和6年度 公益事業の成果

日田支部

Dan・Deco

日田支部 櫻木 弘三郎

家型のダンボールキット高さ165×幅100×奥行100mmに杉皮、カンナ屑、鋸屑、毛糸、端切れ等々を木工用ボンドでペタペタくっつける工作、ダンボール・デコレーション・ハウスを略して「Dan・Deco」コロナ禍で活動できない期間もありましたが今年で8年……この取り組みの発端は災害支援活動でした。



平成29年（2017年）7月九州北部豪雨によって日田市の大鶴地区は甚大な被害を受けました。

速やかに災害ボランティアセンター大鶴サテライトが開設され私もボラセンスタッフとして活動しました。住民や災害ボランティアによって居住空間の泥出しや家財の移動等の復旧作業が始まったのですが、公民館は避難所に、遊び場だった広場はボラセンや資機材置き場になりました。家には居られないし父母は片付けに追われて子どもの相手ができません。被災地に子ども達の居場所はありませんでした。

「大鶴の子どもに夏休みの思い出を……」

東日本大震災以降ダンボールワークショップで被災地支援を行っているNPO法人P and Aに助言を受けて、8月11日に大鶴地区の子ども達を招待して第1回目のDan・Decoを実施しました。

ルールは「限りある材料だから独り占めしないで」これだけ。あたらしいなと思う家を想像しながら色を塗ったり端材を貼ったり自由な制作活動、子どもも保護者も楽しんでいる様子、それぞれ個性的な作品が出来上がり子どもの発想力に驚かされました。



以降は目的を災害支援から「ものづくりの楽しさを伝え、建築への興味関心を得る」にシフトして「日田の木と暮らしのフェア」「日田市技能大会」「春の子どもチャレンジ祭り」に出展しました。Dan・Decoは準備設営運営がシンプルなので参加者10組ならスタッフ2名程でも対応できるのが最大の利点。大人も子どももスタッフも楽しんでやれます。支部の活動に取り入れてみてはいかがですか。



令和6年度 公益事業の成果

津久見支部

津久見支部 竹田光徳

津久見支部が公益事業として例年取り組んでいるのが「つくみ秋フェスタ(津久見市ふるさと振興祭)」です。

昨年は令和6年10月26日(土)に開催されました。それまでは「津久見市ふるさと振興祭(つくみ活き粹きフェア)」として開催されていましたが、昨年度より名前も新たにスタートしました。

- ・建築士会の活動を知ってもらう
- ・子どもたちに木のぬくもりや、ものづくりの楽しさを体験してもらうことをコンセプトに頑張っています。

支部では木工製品の販売も行うことから準備の方は開催が10月の最終土日ということもあり10月に入って毎週月水金の週3回作業に汗を流しています。



【作業は晩酌の事を思いながら頑張ります】

準備作業は夜間になりますが、会員の作業場に集合し各パーツを心を込めて作り、販売品は完成させ、子供たちの体験用はパーツのまま会場へ持ち込みます。

この日だけは晩酌が遅くなります。



【積み込み完了、明日の持ち込みを待ちます】



【年季の入った看板を設置し準備完了】

例年土日の2日間で開催していましたが昨年は土曜日のみの開催と雨模様ということもあり来場者も少なく木工製品の販売はイマイチ、在庫品は多くなりました。

それでも子どもたちの喜ぶ顔は遠くにいる孫の事を思い出させてくれます(原動力になっているかも…)



【初めての作業に真剣な面持ちで・・・】

地域活性化のため…支部発展のため…

これからも出来る間は老体に鞭打って頑張っていきたいと思っていますが、何時まで続くのでしょうか…?

[九州ブロック]

建築士の集い福岡大会の参加報告

別府支部 山下公愛

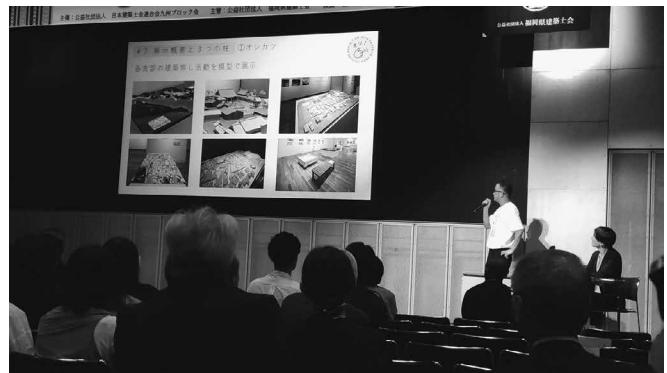
2025年6月21日(土)に開催された、「建築士の集い」(福岡大会)に参加しました。



この度、青年部部長として参加した「建築士の集い」(福岡大会)の各県代表による実践活動発表は、私にとって大きな学びと刺激に満ちた時間でした。九州各地で活躍する建築士たちの活動は、私たちの仕事の可能性を大きく広げるものでした。

印象的だったのは、発表された活動が、単なる建築設計の枠に収まらない、多岐にわたるアプローチで地域の課題に挑んでいたことです。

ある県では過疎地域における空き家を利用するための調査・コンサルティング活動を、また別の県では、地元の子供たちに建築の面白さを伝える活動をしていました。



これらの活動は、建築士の専門知識が、建物の設計・監理だけでなく、まちづくりのプロデューサーやコミュニティデザイナーといった、より幅広い役割を担うことができる示していました。

第一分科会では、建築家・藤本壯介氏の講演でした。

会場の扉の外ではその講演を待ちわびている人の行列が出来ていました。開演前には年齢層の幅広さに驚き、藤本氏の人気を物語っていました。会場は一気に満席となり、熱氣あるまた緊張感ある雰囲気になりました。

ハンガリーの音楽の家、太宰府天満宮の仮殿、大阪万博の大屋根リング、進行中のプロジェクト…藤本氏の建築作品を紹介されていくなかで、自然を崇拜するのではなく、その特性を解体・再認識することで、人間が自然と新しい関係性を築くための「場」を提供しているように感じました。藤本氏の講演は、単なるプロジェクトの紹介ではなく、彼が追及する「紡ぐ建築」という哲学を深く理解する機会となりました。

今回初めて建築士の集いに参加し、他県の青年建築士たちの熱意ある発表からは、建築士がその地域に深く関わり、地域住民とともに汗を流すことで、新しい価値を生み出せるという強いメッセージが伝わり深く感銘を受けました。

この大会で得た刺激と気づきを胸に、建築士として地域に貢献できることを模索しながら活動していきたいと思います。

“大分県建築女子会in別府”に参加して

大分支部 高橋美香

【日程】令和7年3月15日(土) 10:00~17:30

この日の天気はあいにくの雨でしたが、総勢30名ほどの大分県建築士会のメンバーが集いました。

同日開催された別府市新図書館の現場見学のメンバーと合流し、周辺と場内を案内していただきました。

竹を使用してのコンクリート打ち放しに、モックアップを作成して節の出方や間隔などを確認し決定したなど、さまざまなお話を伺うことができました。



図書館の現場からバスを使って移動し、次に向かったのはランチ会場の小町荘園。実はこの物件、私の所属している株式会社和田組が施工を手がけていました！(お恥ずかしい話ですが行く時まで知りませんでした!!!汗)

とてもいい雰囲気のお店で、参加者の皆さんも和やかに過ごしていました。私がいただいたのはチキン南蛮！コクのあるタルタルソースでとてもおいしかったです！



これを読んだ皆さん、ぜひ足を運んでみてください！

その次に伺ったのはガレリア御堂原ホテル。

設計者であるDABURA.m株式会社 代表取締役光浦高史氏が案内してくださいました。見た目が赤いこの建物。着色したと思っていたが、コンクリートの時点での色にしていたそうです。その工法を初めて見たので感動しました…… 内部はアートな空間と、まるで迷路の様な複雑さでした。いつか泊まってみたいです！



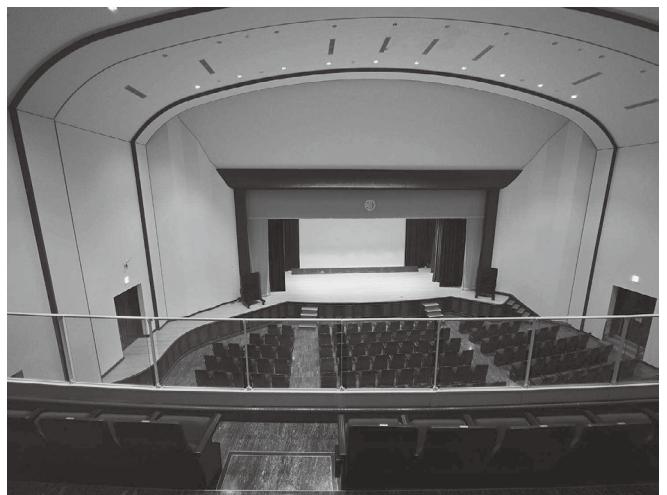
その後またバスに揺られ辿り着いたのは、別府市竹細工伝統産業会館内部を見学させていただきました。大分の竹細工は誇れるものだと再認識することができました。



次に、バスで京都大学地球熱学研究施設へ移動し、別府の別荘に関する歴史を教えて頂きました。

その中の一つである信濃屋さんへ移動し、信濃屋の建物移設方法を教えて頂きました。まさか方向を変えていたとは…初めて知るところばかりで大変興味深かったです。

その後は歩いて野口病院管理棟に向かい、現在の姿を見るることができました。期待している人への投資のような、そのようなものを感じました。



最後に向かったのは別府市中央公民館（旧別府市公会堂）。建物の時代に沿った姿の変わり方に感動しました。その中でもホールやエントランスの変わり様に驚くことばかりでした。改築したものを、元の姿に近い状態へ復元する。建物には時代の変わり方、使用材料の変化などを伝える力があると感じました。

つたない文書で申し訳ないですが、以上でレポートとなります。

今年度はどこに行けるか、どんな方々に出会えるか、どんな建物に出会えるか。今から楽しみです！



九州各地の建築士がオンラインでつながる 建築士サロン交流会の取組について

(公社)大分県建築士会青年副委員長
九州ブロック青年女性建築士協議会会員増強委員会 河野功寛

みなさんお世話になります。大分県建築士会の青年副委員長をさせていただいております佐伯支部の河野功寛です。

私も所属している九州ブロック青年女性協議会の会員増強委員会での「建築士サロン九州交流会」の取組について紹介させていただきます。

会員増強委員会では、建築士会への新規会員・入会後の活動参画促進、交流促進につながるような取組を実施しております。今年度からの新たな取組として企画開催を行なっているのが「建築士サロン九州交流会」です。

九州・沖縄各県の建築士が対面・オンラインで繋がり、テーマをもとにおしゃべり（対話）をする会員交流イベントになります。

特に入会間もない新入会員さんは、県外はもとより、支部内や県内の会員との交流の機会も多くない方もいるため、入会3年目以内の会員（正・準・賛助会員）及び入会を検討されている非会員の方をメイン対象として、実施しております。今年度は、これまで5月と8月に2回実施を行いました。

初回となる、第1回目は5/31(土)に「九州の仲間と繋がろう」をテーマに初回開催。大分チームは、なるべく対象者のみなさんが参加しやすい形をと、県北・県央・県南の3会場を準備し、その会場からオンラインで参加する形式としました。

会の前半は弁当を食べながら県内会員と交流を行い、後半は九州各県の会員とオンラインで交流するという二部制での開催。九州全体で計39名の方が参加されて交流をしました。うち、16名が大分県から参加者で、初めてお顔を合わせる会員の方も多く有り難い開催でした。

第二回目は8/2(土)に「建築士試験」をテーマに開催。総勢25名が参加されて交流をしました。受験真っ只中の方や、これから受験を検討されている方などが参加してくださいり、先輩建築士の受験秘話やそれぞれの対策法などを話題に交流を深めました。今年度の設計製図課題が「庁舎」ということで、九州圏内の参考となりそうな施設情報や各県にて実施されている試験対策用の「施設見学会」のノウハウ

などを情報共有する場面もありました。交流会の参加者の中に実際に資格学校の講師を務められている方などもおられ、受験に向けての貴重なヒントを得られる会になったと思います。ただ、半分くらいは精神論もあったように感じます。受験生の皆さんを心より応援しています。

建築士サロン九州交流会は、開催時期等によってテーマを変えながら、今後も開催をしていく予定ですので、ぜひ気軽に参加してもらえると嬉しいです。

建築士会の大きな意義として、「同士（建築士）とつながれる」というところにあると感じています。所属や世代の異なる建築士が繋がり、楽しく交流しながら見識を広げ、それぞれの仕事や地域に活かしていく、そのような関係をみなさんとこれからも創っていけたら幸いです。

日本建築士連合会九州ブロック会が主体となり
入会されて3年以内の会員対象の交流会を開催します。
第2回となる今回のテーマは「建築士試験」。
試験時の合格秘話や苦労話などをネタに語ります。
自腹だけでなく、九州各県の会員との交流や
活用のきっかけづくりに参加してみませんか。



令和6年度 青年委員長会議

大分支部 甲斐啓大

令和7年3月8日・9日に東京都台東区で開催された全国青年委員長会議に参加をしました。

テーマは「次世代に繋ぐ建築維新」

昨年は災害に対する備えでしたが、今年は横のつながりの作り方に焦点をあてられていました。



1日目の前半は、どういった仲間づくりをすれば大きなプロジェクトにたどり着くのかを題材として

大阪・関西万博若手建築家20選コンペの審査員吉村靖孝氏、コンペ当選者の小俣裕亮氏、金野千恵氏、三井嶺氏のプロジェクト紹介、クロストークを拝聴しました。



吉村さんは、海外の設計事務所での経験から、日本の建築は法規を守りすぎているのではないかとの問題提起をされていました。小俣さんは万博では空

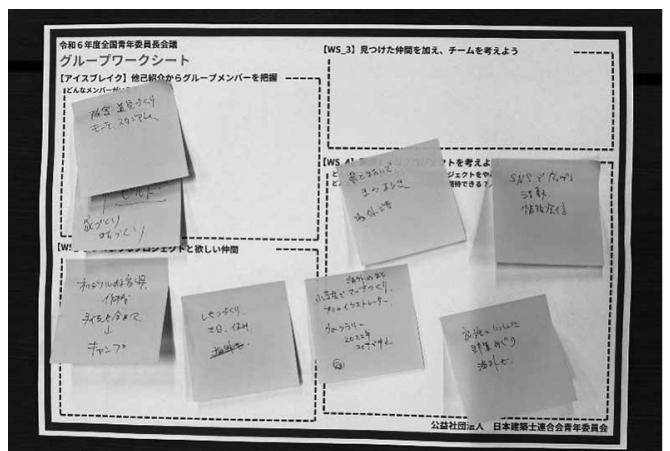
気膜構造をつかった屋根を提案。當時送風のエネルギーや暑さ対策を現代の技術で実験されている話をされていました。

金野さんは設計が始まるまでに4年を費やし計7年かかったプロジェクトの話、万博では食料廃棄物をつかって建材をつくりギャラリーの屋根を作成している話を、三井さんは自然と人工を意識されており、建築物を見たときにその枠から外れた想像ができる工夫を、茶室からの学びを活かして取り入れている話が印象的でした。



1日目の後半から翌日の2日間にかけて青年委員長同士でグループワークを行いました。

6人一チームを組んでの他己紹介・新しい士会プロジェクトの立案・プロジェクトに必要な人材探し・プロジェクト発表とすごいスピード感でワークショップが行われました。





私のグループは「海外と連携したまち歩き」を提案しました。「夢を語れ！」というテーマの元、設定したテーマでしたが、必要な人材が見つかると、実現可能なプロジェクトに見えてくる体験ができました。

またワークを行う仮定で、他県の活動について、深く意見交換をすることができ、大変勉強になりました。



今回の研修で学んだ

- ・仲間の作り方
- ・プロジェクトのゼロイチの作り方
- ・他県の活動のインプット
- ・全国の建築士の人脈

を大分に持って帰り、県の活動に活かしていきます。



全国女性建築士連絡協議会に参加して

大分支部 淳 智子

令和7年度 第34回 全国女性建築士連絡協議会やまがた大会に参加してきました。こういった機会でないと中々行く機会のない東北・山形、大分と変わらずの暑さの中でしたが、思う存分満喫して参りました。

大会の前に山形の日本海側を散策しようと、庄内空港から山形入り。大分県の庄内町民が、山形県の庄内空港に降り立ちまして、ひとり感慨深く。早速九州では目につくことのない景色や、民家の造り、他にも地元のスーパーに寄りこの地域ならではのものを見にし、新鮮を感じながら散策してきました。



熊注意!



地元の食材

19日は大会開催前に全国女性委員長（部会長）会議が行われ、連合会からの報告にあわせて、各県の女性委員長から活動報告を行いました。毎年、この機会に他県の活動を知ることができ、参考になる活動も多いのですが、どの県も人手不足が否めず…皆さん共通の悩みを抱えています。全国共通の課題です。

午後から全体会です。古谷会長の挨拶にはじまり、被災地報告（山形県建築士会酒田支部、石川県建築士会）と、活動報告（福島県建築士会、兵庫県建築士会）が行われました。福島県建築士会では、毎年男女別々で集いが開催されており、会員の減少や高齢化といった課題もあるので、少々強行突破気味に男女合同開催してみた話や、兵庫県建築士会からは、阪神淡路大震災から30年として、一建築士として関わってきたことやこれからの活動や大切に思うことを聞くことができました。

基調講演では、「木造の可能性」をテーマとして

瀬野和広氏、鍋野友哉氏の2名にご登壇いただき、木造（自邸）の設計で失敗した話から気づきを得て、木を知る・使い方・山について、はたまたエンジニアリングウッドの可能性や素材から考えるプロセスなど、お二人のこれまでの設計活動の一部を聞くことができました。



全体会

その後は場所を移して、大懇親会が行われまして、毎回各ブロックから1分間で活動報告を行う「ワンバイワン」があり、今回の九州担当が大分県で、昨年度末の建築女子会について発表してきました。会場では、皆さん同じテーブルになった方たちと名刺交換や交流を深め、大変盛り上がっておりました。日本酒もたくさん準備していただき、幻の14代を飲むぞと行列ができていました。抽選大会もあり、大分からは高橋由美さんが見事に当たっていましたよ！



大懇親会

20日は、各分科会が行われ、G分科会に参加しました。司会者は沖縄建築士会の松田さん、コメントターの一人は福岡県建築士会の近藤さんで、「伝統と未来をつなぐ古民家再生」と題してはじまりました。近藤さんは、自ら古民家を購入・改修して、事務所兼自宅、そして古民家の体験型ショールームとされています。古民家の用途変更における概論とこれまでの事例紹介を発表していただきました。

その後、全体会に移り、各分科会の報告、全体総評があり閉会となりました。

午後からはエクスカーションがあり、A：文翔館とコバル見学コースに参加しました。お蕎麦を昼食にいただき、旧県庁舎及び県会議事堂である文翔館は、ガイドの方から詳細に説明していただきながらの見学、コバルはたくさんの親子でにぎわう中での見学ができました。



文翔館にて



民藝・郷土玩具

大会参加以外では、鶴岡市や酒田市、村山市や寒河江市にも足を延ばし、ここぞとばかりに多くの建築を見てきました。そして日本酒、お肉（山形牛・米沢牛）、民藝や郷土玩具も少しですが見ることができて、山形を大満喫してきました。

鶴岡市のショウナイスイデンテラス（設計：坂茂氏）では温泉もありましたが、泉質は物足りなく、やはり温泉は大分の方が良いと改めて感じました。おんせん県おおいたのものとしての矜持ですかね。



ショウナイスイデンテラス
どんぐりのような温泉棟

次回の全建女は東京での開催です。その次は神奈川県横浜市での開催が決まりました。是非、皆さん一緒に参加してみませんか？女性だけでなく、男性の参加ももちろん可能です。気になることがありましたら、私の方までご連絡ください！



九州の皆さんと

第33回 全国まちづくり会議 in まつえに参加して

宇佐支部 緑川 誠子

令和7年1月31日から島根県松江市で開催された「全国まちづくり会議」に初めて参加いたしました。当日は雪の予報もあり、車での移動をやめて電車を利用することに。大分からは始発のソニックに乗り、新幹線、そして特急やくもを乗り継ぎ、約6時間半かけて松江に到着しました。

今回の会議は、「持続可能な地域社会の実現に向けたまちづくりの新たな挑戦」をテーマに開催されました。会場は、JR松江駅から宍道湖方面へ約1kmの場所に位置する白潟（しらかた）地区。地域の歴史や風土を感じられるこのエリアで、まちづくりに関するパネルディスカッションとまち歩きに参加しました。



パネルディスカッションでは、中心市街地活性化協議会、まつえ白潟エリア賑わい具体化構想策定協議会、松江市役所などが連携し、10年後、20年後の次世代へとつなげる取り組みについて熱く語られていました。官民が一体となって地域の将来像を描き、理想的なまちづくりの体制が築かれていることに、感銘を受けました。宇佐市でも、商工会議所を中心に空き家再生プロジェクトの始動が予定されています。こうした取り組みが実を結ぶためには、熱意ある人たちのつながりが大切だと感じています。

まち歩きでは、空き店舗や空き地が点在している一方で、大正時代に建てられた「出雲ビル」や、築150年を超える古民家をリノベーションしたカフェなど、歴史的価値のある建物の保存と活用が進められていました。さらに、レトロな雰囲気を残したシェアオフィスやテナントビルなども見られ、建築士の方々が魅力的な空間を生みだし、それらの流通が図られている様子が印象的でした。



帰りに益田市にある島根県芸術文化センター「グラントワ」（設計：内藤廣）に立ち寄りました。あいにくの雨でしたが、屋根から外壁まで石州瓦で覆われた建物は、雨に濡れて一層風格を増し、重厚で美しい佇まいに心を奪われました。



「靈仙寺跡・修学院と栄西禅師顕彰茶会」

廣瀬資料館 園 田 大

以前、最澄展の紹介をしました。今回は佐賀県吉野ヶ里町の靈仙寺(りょうせんじ)跡と修学院(しゅうがくいん)を紹介します。さて、大分県内とその周辺を散策すると、筑後川とその周辺の山々には先人達が様々な歴史と文化を「おとし」ています。

■吉野ヶ里町

吉野ヶ里町を散策すると、北は背振山、南は広い佐賀平野で、「道の駅吉野ヶ里」からみると明らかです。この背振山は六郷満山(ろくごうまんざん)、英彦山(ひこさん)、阿蘇山(あそさん)と共に「仏教の聖地」として栄えました。それだけでなく、著名人が訪れここで修業をして、文化も広めました。

■最澄と栄西の業績

靈仙寺跡は天台宗の最澄(さいちょう・七六七~八二二)と臨済宗の栄西(ようさい・一一四一~一二一五)も足を運び、修行をして、吉野ヶ里町に文化もおとしました。彼らを年表にして簡潔にまとめます。

年表 最澄と栄西

延暦二三年(八〇四年)

最澄は入唐海上祈願のため靈仙寺に赴く。

延暦二四年(八〇五年)

最澄は帰国して靈仙寺に赴き、乙護法堂(おとごほうどう)を建立する。この時に「茶の種」を植えるか?

建久二年(一一九一年)

栄西は中国より「茶の茎」を持ち帰り、靈仙寺の石上坊に植える。ここから茶の発祥となる。

最澄は比叡山を創立し、栄西は若いころ仏教の基礎を比叡山で修業をしました。年表から最澄の課題を栄西が実現したようにもみえます。学校の教科書で学ぶ鎌倉仏教の創始者は、若い頃に仏教の基礎を比叡山で学んでいます。

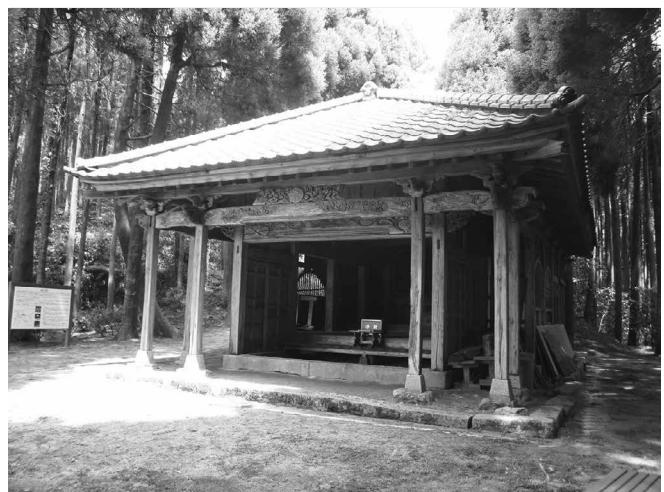
私達はお茶を買うときは、福岡県八女市の星野村を訪れます。その発祥が佐賀県吉野ヶ里にありました。

最澄と栄西は中国で修業をし、持ち帰った文化を日本で広めました。その入口が九州だとわかる貴重な例でもあります。

余談ですが比叡山の周辺には「比叡山坂本駅」「坂本城址」、靈仙寺跡と修学院の周辺にも「坂本」「坂本峠」といった地名が随所にあります。英彦山の南の境界が日田市になりますが、日田は「坂本」の苗字が多いです。

■「栄西禅師顕彰茶会」に伺って

六月二日(日曜日)に「栄西禅師顕彰茶会」が催されました。当日道の駅吉野ヶ里で食事をした後に靈仙寺跡に向ったのですが、そこで面識のない人から「栄西禅師顕彰茶会」のチラシを頂戴しました。



靈仙寺跡



雲仙寺跡の茶畠

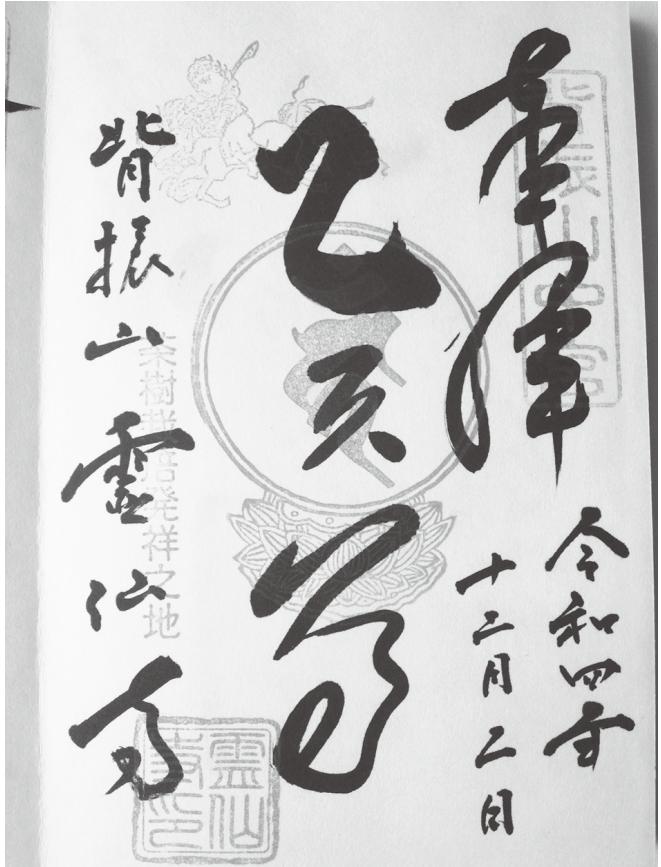
そこで修学院を訪れ、御茶を戴きました。民家の茶室には床の間があり掛軸を拝見しますが、お寺の茶室には床の間がないのでビックリしました。民家とお寺の茶室の違いを知りました。



修学院

頂いたチラシには、食生活の変化と急須とペットボトルへの変化、茶の生産量が減った事が、記されていました。このような生活の変化はお茶だけでなく、私達の生活すべてに該当すると思います。

今後も紀行を紹介しますので、楽しみにしていてください。



雲仙寺跡御朱印



INFORMATION

インフォメーション

佐伯支部



よろず建築相談会の開催

佐伯支部 富松 誠

7月1日『建築士の日』に先立って、令和7年6月29日(日)に建築士の日記念事業『よろず建築相談会』を実施しました。



佐伯支部は昨年同様トキハインダストリー佐伯店(以下インダ佐伯店)にお世話になり、フードコートの一角に相談コーナーをセッティング致しました。今年3月「無印良品」が出店したインダ佐伯店。多くの人で賑わい、飛込み相談者の利用を期待して準備を進めました。



また前回大盛況だった『木工ワークショップ アクセサリー制作』を今年も隣接して開催しました。

昨年は無料で提供しましたが今年は材料代として¥100をいただく形で実施しました。しかしながら、佐伯市のいくつかのイベントと重なっていたためか、店舗の利用客はまばらで木工ワークショップの対象の子ども達も少なく、昨年の状況が嘘みたいに今年

の木工の参加者は全くいませんでした。その結果、相談ブースは建築士会会員の雑談場という状況になってしまいました。

そのような中、たまたま会員さんの知り合いが通りかかり「住宅の相談事ない?」「なんかあるやろ!」となかば強引に椅子に座って貴い話始めると「相談って程やないけどちょっと気になる事はあるよ」と話ををしていただきました。

同じような感じで通りがかった知り合いに声をかけて話を聞いてみれば、またもや「少し気になる事はあるけど建築士にわざわざ相談するのは…」という声。相談するほどじゃないけど、家の悩みを抱えている方は結構多いのでは?

今回の相談内容は①古民家の購入と民泊について②外壁の劣化について③水回りのリフォームについて④築55年の住宅の耐震についてで、相談者は事前予約1人、飛込み4組(知り合い4組)。ワークショップは0人という結果に終わってしまいました。

しかしながら、前述のように「住宅の事で少し気になる事はあるけど建築士に相談するのは少し抵抗がある」と思っている人達がどの様にすれば建築士に気兼ねなく話ができるのか?そのための環境・関係作りが必要なのでは?と今回の開催からこれから課題を得ることができました。

まず佐伯市に建築士会事務局があることを市民に知ってもらい、そこには48人の建築士が所属していることを知ってもらう必要があるのだと私は感じました。

今後佐伯支部の「気になる会」を活用してこの課題についても皆で話し合い、相談者が気軽に利用できる「建築士会事務局佐伯支部」を目指していきたいと思います。





よろず建築相談会

中津支部 千原 仁

令和7年6月29日、中津市においても「よろず建築相談会」を中津市教育福祉センターにて開催しました。当日は、市報を見て事前に予約された4組の相談者に対応するため、中津支部から計5名の建築士が相談員として臨みました。

今回の相談は、4組すべてが空き家に関するものでした。これは、地域における空き家問題と、それに対する市民の関心の高さを示していると改めて感じました。

具体的な相談内容は以下の通りです。

1組目：実家の解体か、活用か

親御さまの「終活」のために、空き家となっている実家の解体を検討しているご家族からの相談でした。解体費用の相場をお伝えするだけでなく、築40年以上でも状態が良く居住可能な家であることから、リフォームや売買、市の空き家バンク事業への登録など、活用の可能性についても幅広くご案内しました。

2組目：長期入院中の自宅の今後

所有者の長期入院により空き家となっている自宅について、今後どうすべきかというご家族からの相談でした。この家も築年数は古いものの立地が良く、状態も維持されていたため、将来的な選択肢として市の空き家バンク事業をご案内しました。

3組目：リフォームか、建て替えか

空き家のリフォームと建て替えで悩んでいるという所有者からの相談でした。リフォームと新築それぞれのメリット・デメリットを、コストや省エネ性能の観点から具体的に説明しました。最終的には、利用できる補助金も踏まえてリフォーム案を提案しました。

4組目：相続した空き家の活用

相続した空き家を今後どうしたらよいかというご

相談でした。何をしたらどのくらい費用がかかるのかを知りたいというご希望でしたので、まずはその家への想いや将来の可能性を伺いました。今後住み継ぐ可能性があることが分かったため、リフォーム費用の目安をお伝えして、具体的な検討の一助となるよう助言しました。

今回は、解体、リフォーム、新築、売買、空き家バンク、相続といった、空き家ならではの幅広い相談内容でした。複数の建築士で対応することにより、それぞれの知識や経験に基づいた、より多くの助言ができたのではないかと思います。

相談者の方々からは「知らなかつたことを教えてもらえてよかったです」「前向きに検討していきたい」といったお声をいただき、建築士としての役割を果たせたのではないかと感じています。

今回の経験を踏まえ、これからも建築士の専門性を活かした的確なアドバイスができるよう、心掛けていきたいと思います。





「令和6年臼杵市八町大路火災」 復興に向けて

臼杵支部 合澤 浩司

令和6年11月24日(日)午後、臼杵市中央通り商店街にて2100m²15棟が焼ける火災が発生しました。約11時間後の25日午前1時過ぎに無事鎮火しました。



出火状況

令和7年3月末をもって被災地域のがれき撤去が終了し、臼杵市八町大路火災復旧対策会議から八町大路火災復興連携会議へ復興事業を受け継ぐこととなり、我々建築士会も協力・参加することとなりました。

4月より月1回サーラ・デ・うすきを会場に、被災者・行政・商店街・協力団体（士会等）で構成されたメンバーで被災者のヒアリング（復興への思いや・要望）から新たな臼杵の町並み復興の発信地として、その課程も大切にし公開していこうと協議しています。



直後の町並み

2回目は、大まかな計画を出し合うワーキンググループ形式で行いました。



かつての町並み

3回目は、中心市街地の準防を外した時の話とその後の木造建築で防火・耐火を考慮した際の方法を（我々も当時検討に参加していましたが、）確認しました。

現在は、新しい町並みを作り発信していこうか・かつての町並みを復元するかで協議しています。



会議の模様

市内の小中高のこども達が、独自の復興イベントを開催してくれたり、祇園祭や夜市など市をあげてのイベントの際に「忘れない・復興への意欲も持続し続ける」をスローガンに活動しています。私たちも年末を目処に新たな町作りに貢献していきたいと思っています。



令和7年度 よろず建築相談

別府支部 中原 健

令和7年6月29日に県下一斎で実施したよろず建築相談にて、別府支部においてはゆめタウン別府で行い、相談件数は3件であった。

1件目の相談内容は、持ち家が老朽化により傾いているように感じるという心配の声であった。家の中にに入るものの恐怖であり、どうしてよいか悩んでいることであったため、建物周囲を目視し大きな破損等がなければすぐに倒壊する心配はないと思われるが、不安を解消する方法として、建設会社や設計事務所に相談し現地調査等を行ってもらうことも一つの方法である旨伝え、業者についてはおおいた住まい守り隊を紹介した。

2件目は、建物のリフォームの相談であった。リフォームを行った場合の一般的な金額の相場を知りたいとのことであったため、内容を例示し概算費用を伝えた。仕様により金額が異なることも併せて伝え、施工業者についてはおおいた住まい守り隊を紹介した。

3件目は空き家相談であった。相談者は市外の空き家所有者の相続人の一人であり、どうしてよいか悩んでいることであった。空き家について他の相続人と話をした経緯もないとのことであったため、

第一に、他の相続人と誰が所有者となるかを踏まえ、今後の空き家の活用及び解体について協議を行い、方針を決めるよう伝えた。また、空き家の存る市の空き家相談窓口に相談することや、空き家サポートおおいた等のNPO法人に相談することも視野に入れてはとの助言を行った。

相談に来た二名とも高齢者であることから、インターネットでの情報収集等が困難で、誰に相談して良いかわからないとの思いがあり、今回実施した顔を合わせての相談の方が安心して相談に来る事ができるとの意見であった。

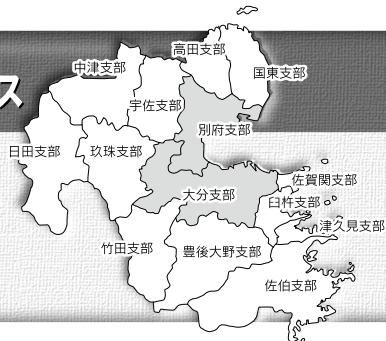


PERSONAL INFLUENCE パーソナルインフルエンス

個人が他人に及ぼす影響力

我が街の建築士紹介

(掲載については順不同です)



氏名	安達 和輝	生年	昭和62年
勤務先	有限会社エイダイ住建		
趣味	バスケットボール観戦		
将来の夢、モットーなど	<p>前職は、ステンレス／アルミニウムなどのTIG溶接の仕事をしておりました。20代前半で現在の会社に転職し、施工や現場管理に携わっておりましたが、設計に興味を持ち令和5年に二級建築士を取得しました。まだまだ建築士としての経験も浅く日々勉強ですが精進していきます。今後ともよろしくお願ひいたします。</p>		
	安達 和輝(大分支部)		

氏名	池邊 慶太	生年	昭和56年
勤務先	池辺慶太建築設計		
趣味	植物、写真、時々アウトドア		
将来の夢、モットーなど	<p>マンションの室内や少し広めのベランダで植物のお世話をする時間が自分にとって大切なマイタイムです。出身も様々、色々な種のプランツと日々向き合っていると、その子たちの特性と季節の移り変わり、気温の変化などに敏感になります。20種類程ですが、維持するのは結構根気が必要です。しゃべれないプランツたちは、こちらがじっくり様子をみることが必須です。繊細な子はちょっとしたミスで駄目になってしまいます。夏と冬が大敵。人間と一緒にですね。大変だけど、花を付けてくれたりすると、とにかく嬉しい。建築を考えるときも、そんなふうに人や環境のことを思いながらやれたらと思っています。</p>		
	池邊 慶太(大分支部)		

氏名	塩出 巧基	生年	平成12年
勤務先	(有)塩出木工		
趣味	サッカー、キャンプ		
将来の夢、モットーなど	<p>このたびご縁をいただき、本会に入会いたしました塩出巧基と申します。建築の仕事に携わる者として、ここでの活動を通じて新しい学びや刺激を得ながら、成長していくべきと考えております。</p> <p>私のモットーは「仲間と共に楽しみながら成長すること」です。仕事でも、建築士会の活動でも、その姿勢を大切にして取り組んでまいります。</p> <p>まだまだ未熟ではございますが、行事や活動に積極的に参加してまいりますので、どうぞよろしくお願ひいたします。また、懇親の場での交流も心から楽しみしております。</p>		
	塩出 巧基(別府支部)		

MY WORK

★建物名称 介護施設の職員寮
(外国人スタッフ用)

★建築場所 大分県佐伯市蒲江

★設計計 井上一則・空間工房一級建築士事務所

★施工者 谷川建設工業株式会社

★構造・面積 木造2階建 216.60m²

★用途等 共同住宅

★竣工工 令和6年12月

★設計趣旨

当初事業計画では鉄骨造2階建てにてスタートしたが、資材高騰もあり工事費削減、工期短縮を計り木造を提案し、受け入れられた建築だった。共同住宅という用途もあり、界壁の防火構造化や設備配線等の防火性能等も関係して、つくづく木造化して良かったと思った。その分耐震性能を上げるのとコスト面とのせめぎあいは言うまでもなかった。潮風や強風地域もあるが故に、塩害や耐風への配慮は必要なのと、コストと闘った建築ではあった。



MY WORK

★建物名称	某運輸倉庫新築工事
★建築場所	臼杵市末広
★設計	春建築設計室
★施工者	電気設備 有限会社高野電気
★構造・面積	倉庫1 856.33m ² 倉庫2 675.16m ²
★延床面積	倉庫1・2 建築面積 同
★用途等	冷蔵倉庫
★建物特徴	この建物は、膜構造を採用しています。 膜構造のメリットは、以下となります。

1. 少ない資材で建築できることによる、低炭素化の促進
ケーブル併用などにより軽量構造の実現により、製造・施工時に発生するCO₂の排出量の削減を実現
2. 軽快性と開放的な空間による快適性の実現
軽量な幕を支える骨組の間隔を大幅に広げることが可能、幕による明るく大きな空間を実現
3. 形状自由度の向上による、デザイン性の自由度向上
優雅でダイナミックな形状の構築が可能

というような話を聞き今回の工事に電気設備の工事者として参加しました。
意匠的な自由度が増すと設備は苦労します。



天井は幕なので明るい

軽量ですので柱等も小さく倉庫という用途でもあるので露出配管となります、目立つので取付にも気を使います。

電気設備の工事種目

1. 低圧幹線（電灯・動力の電源）
2. 電灯（照明・コンセント）
3. 動力（シャッター・フォークリフト・冷蔵庫電源）
4. 弱電（空配管）
5. 防災（自火報）

大空間であり幕であるため天井裏の自火報感知器は、自動点検機能付きが要求されました。受信器と感知器がコストアップしています。



防火（水圧式）シャッター制御盤・自火報受信器

臼杵市では、水圧シャッターや自動点検機能付きの感知器は珍しいので、消防検査では通常2名で来るところが7~8名やってきます。そうすると検査時間も長くなります。



自然豊かな環境に建つ倉庫となっております

MY WORK

★建物名称 コンコード・サウナ
(協和産業株式会社の社宅併設サウナ施設)

★建築場所 津久見市彦ノ内

★建築主 協和産業株式会社

★設計計 株式会社たかせao

(社宅は2018年完成/弊社設計)

★施工者 直営

★構造・面積 テント造、一部、RC

(ボックスカルバート) 造 51.50m²

★用途等 社宅併設サウナ施設

★設計趣旨

「おんせん県おおいた」の温泉のないセメント産業のまち=津久見。

『土木は大切で楽しくて持続可能でなければならない』という想いから、セメントのまちの土木屋さん(=協和産業株式会社、伊東忠文社長)が社員のためにサウナを作りたいという依頼を受けました。

これに対する我々の提案は「ボックスカルバートでつくりましょう！」

理由は以下の通り。

- ・土木業であること。
- ・セメントのまち津久見であること。
- ・「土木って楽しいんだよ。」ってことを表し、同時に「人材不足」「社員のプライド」など様々な問題解決に波及することを狙う。
- ・「地方にも元気な会社があるぞ！」ってことの表明。など、伊東社長の『想いをカタチにすること』をテーマとした。



MY WORK

★建物名称 すがおこども園 園舎新築工事

★建築場所 豊後大野市三重町

★設計監理 (株)高野建設一級建築士事務所

★施工者 (株)松井組

★構造・面積 木造平屋建て・1057.45m²

★用途等 幼保連携型認定こども園

★竣工 令和5年10月

★設計趣旨

既存施設の老朽化による、幼保連携型認定こども園の建替え工事の設計監理・施工でした。

建物の構造は木造にこだわり、ゆったりとした空間で保育ができる「田舎の良さを活かす・遊び心を大切に」、限られた時間と予算の中で完成しました。





My Best Book

マイベストブック

『小さな悟り』

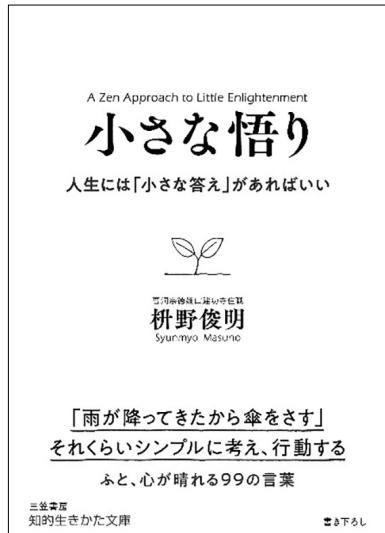
著者：枠野 俊明

日田支部：熊谷 高則

「小さな悟り」とは？余計な考え・迷い・情報を取り除いて、限りなくシンプルに考え、行動する。そのために、ちょっとものの見方を変える。ちょっとと発想を変える。それが「小さな悟り」です。

著者は神奈川県にある曹洞宗徳雄山建功寺のご住職：枠野俊明氏です。庭園デザイナー、多摩美術大学環境デザイン学科教授も兼業されています。禅の思想と日本の伝統文化に根ざした「禅の庭」の創作活動を行ない、国内外から高い評価を受けておられます。

数年前にAmazonで偶然見つけ購入した本書ですが、困ったとき、悩んだとき、迷ったとき、この本を読むと心がスッキリとします。年齢を重ねるにつれて、葬儀や法要に参列する機会が増えました。お坊さんの説法を拝聴することも増え、残りの人生を考えるようになりました。本書には、人生や生活の本質を直視して、シンプルに行動するための、ちょっとしたヒントが書かれています。永く付き合える本となりました。1ページで完結する構成ですので気軽に読めます。皆さんもぜひご一読ください。



『あしたの風景を探しに』

著者：馬場 正尊

中津支部：日高 雄介

大分県建築士会大分支部でも以前、魁!!リノベ塾のゲストスピーカーとしてお招きした事のある建築家の馬場正尊さんのエッセイです。

著者が大学時代に関わるAというフリーペーパーから社会にアクセスし、その後建築やリノベーション、東京R不動産というウェブメディアという多種多様な分野に繋がっていく過程が著者の言葉で描かれていてとても読み応えのある内容でした。著者はこれまで、建築やリノベーション、公共空間や働き方など様々な著書を出版されてますが、その総集編的内容とも言える内容だと思います。

建築に限らず様々な物事が多様化する社会の中で、著者のように多種多様な領域を横断して活動をされている建築家の認知度が現れる事により、著者以外にも新しい建築家像を感じる建築家の方が増えてきた事にある種の希望のようなものを私は感じていますが、著者にとってそれは「まだ見ぬ風景をみたがためにやってきたこと」と言われていて、大きな社会変革を起こしたい、建築業界を根底から変えていきたい、というような大きな目的を持っているわけでは無さそうです。

風景というと窓から見える外の景色、見晴らしの良い高台から見た地域の景色という印象を受けますが、著者にとってはもっと身近な日々の暮らしの中の一つ一つを指しているような印象を受けました。新しい風景は社会のどこかで誰かが作ってくれるものではなく、生活者一人一人の意識で作っていけるんだと感じましたし、今まで自分はどんな風景を見て来て、これからどんな風景を見て行きたいのだろう、あるいは作っていきたいのだろうという事を強く考えさせられる一冊でした。



My Best Book

『なぞとき赤毛のアン』

著者：松本 侑子

高田支部：後藤 憲二

この本を取り、はじめに部分を見て、あなたは、『赤毛のアン』を読んだことがありますか？と問い合わせられ、いいえと即答した。『赤毛のアン』はカルピスさんが劇場でTVアニメとして観たけど読んではいない。（ムーミン、山ねずみロッキー、チャック、アルプスの少女ハイジなど一連のアニメはトム・ソーヤの冒険あたりまで見続けていた。

実はスポンサーの関係でカルピスさんが劇場はハイジまでで、スポンサーの関係により冠の名称は変遷して行き、赤毛のアンのころは世界名作劇場だったらしい。）

農場を営むマリラとマシューの兄妹に農場の手伝いをする男の子を孤児院から養子に迎えたが、手違いで11歳の赤毛の少女アン・シャーリーが送られてくる。最初は戸惑うマリラは送り返そうと考えるが、アンの明るく想像力豊かな性格に心を動かされ、彼女を引き取ることに決め、アンがその後幸せに育っていく5年間を描いたものだ。主人公のアンを中心に話は展開していた記憶がある。しかし、アンの他に気難しく頑固なマリラについても実はしっかりと描写されていて、人生の半ばを過ぎた大人の女性が、アンと出会うことにより、優しさと愛を表現できなかつたかたくなな人格から、柔らかく温かな人柄へと生まれ変わっていく姿を、じっくりと丁寧に描いていること。

漫画劇場の一連のアニメは、児童文学からのものと思っていたが、どうも赤毛のアンについては毛色が少し違うらしい。著者自身が赤毛のアンの大ファンで出版社から新訳を依頼され原書を読むと英文は長く、単語は難しく、芸術的な文体で、児童書ではなく、大人の文学だったと感想が書かれている。カナダ東部の文化や歴史も踏まえた作品の背景を翻訳書の中で訳註として解説しているらしく、これまで文庫で読んでいないがこの新しい翻訳書を読んでみたくなった。

また、著者自身が撮影されたプリンスエドワード島州などの写真80枚も掲載されている。プリンス・エドワード島やモンゴメリゅかりの地が、色鮮やかに立ち上がってくる構成となっている。20代の頃カナダ西部のブリティッシュコロンビア州に住んでいたので西部と東部はやっぱり大分違うなと改めて思い一度訪れてみたくなった。



『アルプス席の母』

著者：早見 和真

玖珠支部：梅木 恵美

この文章を書いている、まさに今、高校野球夏の甲子園大会が行われています。

この本は、タイトルからわかる通り、高校球児の母の物語です。私の息子も、小学校2年生から少年野球を始めました。地元の小さなチームで中学野球、人数ギリギリの地元校での高校野球と、親の私も10年以上、毎週末は暑くても寒くてもグラウンドで過ごしてきました。最初はどっちが1塁か3塁かも分からぬ程度の野球音痴でしたが、おかげで野球のスコアを書くのが趣味になるほど、最後まで高校球児の母として楽しく過ごすことができました。

少年野球のころから注目の選手であった息子航太郎と、シングルマザーの母菜々子親子二人の青春の日々。航太郎は恵まれた体格と才能で、大阪の強豪私立にスカウトされ全寮制野球部に入り、母と離れて高校野球の日々を過ごします。母の菜々子は、高校野球の保護者として息子を見守る中でリアルな父母会や人間関係、お金の話への葛藤。理不尽さや喜びなど母の気持ちが織細で丁寧に描かれています。

物語の舞台は高校野球ですが、何かに夢中になり、夢を追いかけ、傷つき喜び絶望や希望、そして成長していく姿と、それを見守る母の気持ちはすべての親子に共通していると思います。甲子園に出ること、プロ野球選手になることがすべてではなく、白球を追いかけているすべての子どもたちそれぞれにドラマがあり、今日もまたどこかで汗と涙が流れています。

息子の高校野球が終わった後に読みました。

甲子園には縁のない弱小チームと、本気で甲子園を目指す強豪チームとの違いはあれ、同じようにアルプス席で母として過ごしてきた日々を思い出し、胸がキュッとする本でした。2025年本屋大賞2位に選ばれています。高校野球に興味が無い方でも、ぜひ一度手に取って頂きたい本です。



近況トピックス

佐伯支部 福井 大輔

津久見支部の高瀬さんからの御指名を受けまして、近況トピックスに寄稿せよというミッションに、近況報告ができることに幸せを感じながら寄稿したいと思います。

私は現在、本業のかたわら、佐伯で2つの市民団体に所属し活動をしております。「サイキネオヤンキー」と「しゃべり場」です。

「サイキネオヤンキー」は令和4年度大分県のシビックテック推進事業「Craft Local」で生まれた地域課題解決型ヤンキー。令和5年度より自走し、現在で3年目になります。



令和4年度の大分県の事業では、日本文理大学附属高校のユーチューブの生徒さんと佐伯の大入島と旧市内を撮影しながら自転車で巡る企画を行いました。



自走を始めた令和5年度から令和6年度には佐伯豊南高校の地域探究学習の授業で、ロゲイニング（オーストラリア発祥のナビゲーションスポーツ）の企画設計実施までを伴走しております。



令和6年度には宮崎県えびの市に、今年度は東京に遠征と少しずつですが活動の幅を広げております。

また8月には流しそうめん企画、今後はアジト（拠点）づくり、法人化なども視野に、地域に根差した活動を展開する予定です。

「しゃべり場」は令和3年度から令和6年度の佐伯市民大学講座で生まれた、魅力的な佐伯の街づくりを多世代で話し合える場づくりを目指した市民団体です。



令和6年度の1月から自走、本格始動し、毎月1回、さいき城山桜ホールの交流スペースで開催しております。



おじいちゃん、おばあちゃん、社会人の方から高校生、行政職員の方、市議さんなど、毎回多くの

方々に参加いただいております。また県の方の支援により、大学や企業との連携も視野に、活動をしております。

このように本業の「建築」のかたわら、どちらの活動も「まちづくり」に関わることでできることに感謝しつつ、長く活動を続けられるよう、日々を過ごしていきたいと思っております。



近況トピックス

玖珠支部 瀧石 雅一

何事も始めるのには、遅くはない。

平成13年（2001）年に建築士を取得し、同時に建築士会に入会してから24年間が経過しました。

娘達を連れて士会の行事に参加しておりましたが、その娘達も20歳・18歳となり最近では専ら私にはかまってくれなくなりまして…

兼ねてより自分のチャレンジしてみたかった事に取り組む事に。

家族には当然反対されましたが、46歳にして普通自動二輪免許を取得しました。



25年振りに通う教習所生活は、見極め・第一段階・第二段階・卒業検定と何とも新鮮な時間でしたが。それと共に怪我もよくしました。

バイクに乗り始めてからソフトクリームを食べる事が増えたと云うか、むしろソフトクリームを食べる事にバイク乗るのではと感じることがあります。

そんな中長女が、自分もバイクに乗りたいと打

ち明けてくれたので、長女は普通自動二輪・私は大型自動二輪と親子で同時に教習所に入校と卒業を果たしました。

今年の盆に親子ツーリング。行き先は同級生が女将を勤めている旅館にて韓国ドリンクを飲みながら他のライダーさんとの交流でした。

何気ないことですが、大切な時間を過ごす事ができました。女将がバイクと一緒にツーショットで撮ってくれた1枚ですが、写真に撮られるのが苦手な2人の感じがよく表れた1枚だなあと思ってほっこりしています。

今後もバイクで色々な景色とソフトクリームを食べる事にツーリングを楽しみたいと考えています。自分がバイクの免許を取ると決めた時に、強く心に誓ったことがあります。

バイクの特性上どうしても人間の身体が剥き出しなっており、車に比べて多少無理（横着）な運転が出来てしまいます。そこで『見えないは行けない』と考え残りの人生を長くバイクに楽しく乗れるように努めています。

士会員の方でライダーの方が居ましたら、ツーリングにお誘い頂ければご一緒したいと考えています。



マーボーの旅失日記 その23

顧問 井 上 正 文

大阪府・和歌山県の国宝建造物を巡って

大阪府内には5箇所、和歌山県内にも5箇所に国宝建造物が存在します。いずれの地域も伝統的歴史文化あふれる地域である京都や奈良にも近く、古代、中世、近世を通じて歴史的文化が色濃く残っている地域です。

○大阪府の国宝建造物

大阪府には、①住吉大社社殿（大阪市）、②慈眼院多宝塔（泉佐野市）、③勸心寺金堂（河内長野市）、④桜井神社拝殿（堺市）、⑤孝恩寺観音堂（貝塚市）の国宝建造物があり、順次紹介しましょう。

まず、住吉大社を紹介するに当たって、神社建築における建築形式を復習しておきましょう。神社建築社殿の様式は＜平入形式＞としての唯一神明造（伊勢神宮）、流れ造（宇治上神社等）、日吉造（日吉神社等）、八幡造（宇佐八幡宮等）及び＜妻入り形式＞としての大社造（出雲大社等）、住吉造（住吉大社等）、春日造（春日神社等）に分類されています。

■住吉大社社殿（写真1参照）住吉神社は全国に点在していますが、海岸付近に建立されることが多く、海運航海の安全をつかさどる神をまつる神社



写真1 住吉大社社殿

として崇められています。大阪市内に存在する唯一の国宝建造物でもあり、多くの参拝客が訪れる観光スポットにもなっています。

■慈眼院多宝塔（写真2参照）小振りな多宝塔ながら端正な姿が特徴です。石山寺、高野山金剛三昧院の塔と並ぶ日本三名塔の一つとされ、鎌倉時代に建立されました。その高さは10メートル余、我が国最小の塔とも言われています。



写真2 慈眼院多宝塔

■勸心寺金堂（写真3参照）大阪府下で本堂として最古の国宝建造物であり、七間四方、单層入母屋造、



写真3 勸心寺本堂

和様、禅宗様、大仏様の折衷様式の代表的な遺構です。

室町時代初期に建立されています。

■**桜井神社拝殿**（写真4参照）鎌倉時代の建立で、二重虹梁棊股といわれる古い形式の架構法で、内部中央を土間の馬道とする割拝殿になっています。外壁の白壁と朱色の木部との鮮やかなコントラストが美しく、簡素で明快な木組みに時代を感じることができます。



写真4 桜井神社拝殿

■**孝恩寺観音堂**（写真5参照）観音堂は、浄土宗寺院、孝恩寺の本堂です。創建時に釘を1本も使わずに建てられたという伝承から、地元では「釘無堂」という名称で親しまれています。観音堂は、奈良時代の神亀3年（726年）、僧行基（ぎょうき）が本地に建立したとされる深谷山観音寺のお堂として建てられた建物です。現存する建物は鎌倉時代後期の再建と考えられています。



写真5 孝恩寺観音堂

○和歌山県の国宝建造物

和歌山県には、①金剛峯寺不動堂（高野町）、②金剛三昧院多宝塔（高野町）、③長保寺本堂・多宝塔・大門（海南市）、④善福寺釈迦堂（海南市）、⑤根来寺多宝塔（岩出市）の5箇所に国宝建造物があり、順次紹介しましょう。

■**金剛峯寺不動堂**（写真6参照）桁行三間、梁間四間、一重入母屋造、右側面一間通り庇、左側面一間通り三間庇、縋破風造（すがるはふづくり）、向拝一間、檜皮葺の造りです。柱を繋ぐ頭貫の上に付く棊股は文様が美しく、軒を支える垂木には美しい反りがあります。平面や軒の納まりが複雑で特異な形態で、14世紀前半の建築と推定されています。階高は低く、屋根勾配は緩やかで、仏堂というよりは住宅風の趣を持つ優美な建物として有名です。



写真6 金剛峯寺不動堂

■**金剛三昧院多宝塔**（写真7参照）

貞応2年（1223年）に源頼朝・実朝父子の供養のために建立されたもので、和歌山県内で最も古い建造物としても知られています。二重の屋根は現在檜皮葺ですが、当初は厚板を用いた羽葺（とちぶき）で、その葺材の一部が小屋内に残存しています。二重に対して一重が大きく、均整の取れた姿となっており、一重の屋根と二重の間には亀腹（かめばら）を付けています。一重の内部は全面に彩色が施されるとともに、天井には細やかな細工がなされているなど、華やかな空間となっています。



写真7 金剛三昧院多宝塔



写真9 長保寺多宝塔

■長保寺本堂（写真8参照）

・多宝塔（写真9参照）・大門（写真10参照）



写真8 長保寺本堂

本堂は「長保寺記録抜書」によれば延慶4年（1311年）建立で、入母屋造、本瓦葺き、桁行（正面）5間、梁間（側面）5間で、1間の向拝を付す造りとなっています。多宝塔は、正平12年（1357年）建立で、本瓦葺の造りです。大門は、後小松天皇の勅宣を受け、嘉慶2年（1388年）に再建とされています。三間一戸の楼門、入母屋造、本瓦葺の造りです。



写真10 長保寺大門

■善福寺釈迦堂（写真11参照）善福寺は建保2年

（1214）に栄西禅師によって創建されたと伝えられる寺です。一重裳階付きの釈迦堂は、鎌倉末期の唐様仏殿建築であり、創建当時は七堂伽藍の大寺院でしたが、現在はこの釈迦堂のみ現存しています。釈迦堂は桁行三間、梁間三間に裳階（もこし）を付け、寄棟造、本瓦葺の造りです。内部は仕切りのない一体の空間で、床を張らない土間に、上部は梁や垂木を見せた典型的な禅宗様の仏殿です。中世の和様建築の特徴も併せ持ち、興味深い形式の仏殿です。



写真11 善福寺釈迦堂

■**根来寺多宝塔**（写真12参照）日本最大の規模を誇る多宝塔です。かつて高野山上にあった大塔の形式を継承して、根来の地で再建されました。真言宗の大塔形式を伝える 総高36mの多宝塔で、根来寺の最盛期であった天文16年（1547）に完成しています。



写真12 根来寺多宝塔

★おまけ★

「早すし」（写真13参照）和歌山ラーメンは全国的にも有名ですので、現地に行かれがあれば是非、味わってみてください。JR和歌山駅近くのラーメン専門店の「井出商店」はお勧めです。さて、和歌山のラーメン店に入ると、カウンターやテーブルの上に「早すし」なる一口サイズの鯖の押し寿司が置かれていることに気づかれるかと思います。ラーメンが供される前に、小腹を満たすために、ちょっと搞んでみるのも宜しいかと。もちろん、ラーメンとは別料金ですが、1個200円程度ですので、お気軽に。



写真13 早すし

事務局だより

■委員会活動報告及び予定

総務委員会

＜役員会開催＞

令和7年4月8日（火） 士会事務局

- ・会員少数支部へのサポートについて
- ・財政健全化について

＜役員会開催＞

令和7年4月22日（火） 士会事務局

- ・財政健全化について

＜第1回＞

令和7年7月15日（火） コンパルホール

議題

1. 財政健全化・会員増強について
2. 会員数少ない支部への支援について

歴史的建造物委員会

＜役員会開催＞

令和7年4月21日（月） 士会事務局

- ・令和7年度のヘリテージマネージャー養成研修について

青年女性委員会

＜第1回＞

令和7年4月22日（火） 士会事務局（WEB併用）

議題

1. 活動報告
2. 建築士の集いin福岡について
3. 建築セミナーin大分について
4. 会員増強委員会から報告・連絡
5. 地域実践活動発表について
6. その他
7. 今後の予定について

＜総会＞

令和7年6月13日（金） コンパルホール

議題

1. 令和6年度事業報告及び収支報告について
2. 令和7年度事業計画及び収支予算について

防災委員会

＜役員会開催＞

令和7年5月14日（水） 士会事務局

- ・「罹災証明に必要な住家の被害認定調査研修会」の開催について

＜研修会開催＞

令和7年6月4日（水）に日田市複合文化施設A O S E（アオーゼ）において令和7年度「罹災証明に必要な住家の被害認定調査研修会」の開催

情報広報委員会（編集部会）

＜第1回＞

令和7年7月5日（土） 士会事務局

- ・令和7年度「建築士おおいた秋季号 No.135」編集部会開催

＜第2回＞

令和7年9月6日（土） 士会事務局

- ・令和7年度「建築士おおいた秋季号 No.135」編集部会開催

報告1

「第1回理事会」について

令和7年5月21日（水）に、コンパルホールにおいて本年度第1回理事会が開催され、次の議案について審議されました。「会員名簿の電子化」について引き続き検討する事とし、その他の議案はいずれも承認されました。

1. 令和6年度事業報告について
2. 令和6年度収支決算について
3. 代表理事及び業務執行理事の業務執行状況の報告について
4. 会員名簿作成にあたり支部還元割合や電子化について
5. 新しい公益法人制度について
- ・その他会務報告

報告2

建築士サロン九州交流会について

「九州の仲間とつながろう」をテーマに九州ブロック会が主体となり、入会されて概ね3年程度の方を対象にオンラインによる交流会が2回開催されました。前半は各県交流会で、後半は各県の青年部の活動状況や九州建築士の集い、全国大会、省エネ対応、相談事、製図試験、建築士の資格等多岐に亘る話題で盛り上りました。

第1回は、令和7年5月31日（土）に大分からは3会場16名が参加しました。

第2回は、令和7年8月2日（土）に大分からは3会場5名が参加しました。

の推しの建築展」の活動報告を行い3位入賞しました。

入賞おめでとうございます!!

報告6

「第34回全国女性建築士連絡協議会 山形大会」について

令和7年7月19日（土）、20日（日）に、「みらいへつなぐ木への挑戦～雪・山・川がおりなす食文化と共に～」をテーマに、山形テルサで、開催されました。大分県から7名の方が参加（内1名はリモート参加）しました。

報告3

「通常総会」について

令和7年6月13日（金）に大分市の大分センチュリーホテル桜の間において開催され、次の議案について審議されいずれも承認されました。

1. 令和6年度事業報告の件
2. 令和6年度決算の承認の件
3. 令和7年度事業計画及び収支予算書の件
- ・その他会務報告

報告7

「第67回建築士会全国大会 おおさか大会」の開催について

令和7年9月19日（金）、大阪市の「グランキューブ大阪」にて開催されました。

大会のテーマは、「建築からソーシャルデザインへ」です。「2025年大阪・関西万博」の開催に合わせて開催され、ワクワクする企画が盛況だったようです。

■事務局からのお知らせ

案内1

「監理技術者講習」の開催について

（監理技術者以外の方も受講可能）

大分県建築士会では開催月「第2水曜日」に建築工事に特化した内容で「監理技術者講習」を開催しています。特に、一級建築士、1級建築施工管理技士、1級電気工事施工管理技士、1級管工事施工管理技士等の「建築工事の分野で活躍されている監理技術者」にとりましては、実務に役立つ充実した内容のテキストを使用して講義を行います。CPD6単位が付与されます。

【今後の開催予定】

○開催月「第2水曜日」に開催します。

令和7年 9月10日（水） 終了しました

10月8日（水）

11月12日（水）

令和8年 1月14日（水）

○時 間：8：50～16：40 [受付8：30開始]

報告5

「建築士の集い 福岡大会」について

令和7年6月21日（土）に、福岡市のアクロス福岡で開催されました。

本大会の「地域実践活動発表」では、伊藤憲吾さん（大分支部）と池邊慶太さん（大分支部）が、「大分

※8:45～8:50の5分間に講習の運営説明があります。

○会場：(公社) 大分県建築士会会議室

○形式：DVD講習

○定員：各回8名程度

○受講料：WEB申込 9,500円/

窓口・郵送申込 10,000円

※受講申し込みは、日本建築士会連合会HPよりお申ください。

案内2

「建築士定期講習」の開催について

建築士事務所に属する建築士に3年毎の受講が義務付けられた定期講習です。令和7年度の受講対象者には4月上旬に(公財)建築技術教育普及センターより「受講案内のDM(お知らせ)」がご自宅宛てに送付されています。(前回3年前の講習を、(公財)建築技術教育普及センターで受講した方のみ)

【受講対象者】

前回受講年月日が令和4年4月1日～令和5年3月31日の所属建築士の方

【令和7年度の開催予定】

受付窓口を建築士会、建築事務所協会で担当していますので、お間違えの無いようお願いします。

【今後の開催予定】

○日程

令和7年9月3日(水)(士会) 終了しました

令和8年3月4日(水)(協会)

○会場：大分職業訓練センター

※申込については、原則オンラインでのお申込となります。

※申込書のダウンロードについては、(公財)建築技術教育普及センターのホームページをご覧ください

<https://www.jaeic.or.jp/koshuannai/teikikoshu/kteiki/index.html>

※(公財)建築技術教育普及センターでは、講義から修了考査まで全てをオンラインで完結する「オンライン講習」も実施しています。

詳細は、こちらをご覧ください。

オンライン講習(WEB講義+WEB修了考査) 建築技術教育普及センター
ホームページ(jaeic.or.jp)

案内3

「既存住宅状況調査技術者講習(更新・新規)」の開催について

改正宅建法の重要事項説明の既存住宅状況調査を行うには、この講習会を修了し、登録されることが必要です。

【今後の開催予定】

○新規講習(年1回開催)

日程：8月に終了しました。

○更新講習(年1回開催)

日程：令和7年10月22日(水)

※申込方法等詳細は、(公社)日本建築士会連合会のHPをご覧ください。WEBからでも申し込みができますので、そちらもご利用ください。

【オンライン学習(新規講習・更新講習)のご案内】

・インターネット環境の整ったご自宅のパソコンや職場のパソコンにて受講可能です。修了考査の解答までオンラインで完結します。

詳しくは、連合会のホームページをご覧ください。

案内4

「住宅リフォームエキスパート増改築相談員研修会」の開催について

○日時：令和7年9月9日(火) 終了しました

○場所：コンパルホール

○受講料：新規 25,000円 更新 16,000円

※8月に支部を通じて案内済。更新対象者には文書を送信済。

案内5

「建築甲子園 大分県大会選考会」の開催について

工業高校、高等学校、工業高専(3年生まで)を対象とした、全国設計競技会の大分大会が次の日程で開催されます。今年度の課題は「地域のくらし 一地域に根ざした新しい和室を持つ戸建の住まい」です。

○日時：令和7年10月18日(土)

○場所：コンパルホール 多目的ホール

案内6

「ヘリテージマネージャー養成研修」の開催について

令和6・7年度のヘリテージマネージャー養成研修を計画しています。令和7年度は8回の研修を予定しています。プログラムの概要をご案内いたしますが、追って詳しく再度ご案内いたします。

○第1回 心の建築・古民家再生

日時：4月に終了しました。

○第2回 伝統的建築物とまちづくり

日時：7月に終了しました。

○第3回 演習A

日時：令和7年9月27日（土）

場所：戸次本町帆足本家酒造蔵

○第4回 演習B

日時：令和7年10月26日（日）

場所：調整中

○第5回 伝統的建造物の工法

日時：令和7年11月29日（土）

場所：佐伯市遊志庵

○第6回 保存物件修理工事概算見積りの出し方

日時：令和7年12月6日（土）

場所：アートプラザ

○第7回 演習C

日時：令和8年2月7日（土）

場所：J:COMホルトホール大分

○第8回 まちなみ視察 修了式

日時：令和8年3月7日（土）

場所：八女市八女福島地区

11月

- 12日(水) 監理技術者講習
29日(土) 第5回ヘリテージマネージャー養成研修（佐伯市遊志庵）

12月

- 2日(火) 二級・木造建築士合格発表
6日(土) 第6回ヘリテージマネージャー養成研修（アートプラザ）
13日(土) おおいた建築セミナー（J:COMホルトホール大分）
24日(水) 一級建築士合格発表

令和8年1月

- 1月～3月 会員増強特別期間
14日(水) 監理技術者講習
25日(日) 大分市空き家相談会（ホルトホール）

2月

- 7日(土) 第7回ヘリテージマネージャー養成研修（J:COMホルトホール大分）

3月

- 4日(水) 建築士定期講習会（協会）／大分
7日(土) 第8回ヘリテージマネージャー養成研修（八女市八女福島地区）

会務行事案内【10月～3月】

※いずれも予定です。中止や延期・変更の場合があります。

10月

- 8日(水) 監理技術者講習
12日(日) 一級・木造製図試験
18日(土) 建築甲子園 大分県大会選考会
22日(水) 既存住宅状況調査技術者講習（更新）
26日(日) 大分市空き家相談会（野津原）
26日(日) 第4回ヘリテージマネージャー養成研修（調整中）

情報広報委員

担当執行役員 高野 雄二
委員長 〈宇佐〉 西胤 幸和
副委員長 〈日田〉 村晋 弘二
委員員 〈高田〉 藤憲 二郎
〈別府〉 本健 二郎
〈大分〉 永和 浩二郎
〈大分〉 後藤 悟二郎
〈大分〉 藤原 次郎
〈大分〉 衛藤 悟二郎
〈大分〉 甲斐 介二郎
〈大分〉 若松 啓二郎
〈大分〉 佐藤 介二郎
〈臼杵〉 佐藤 介二郎
〈佐伯〉 後藤 介二郎
〈玖珠〉 瀧石 長二郎
〈日田〉 久恒 一郎
〈中津〉 日高 雄二郎

編集部員

部会長 〈中津〉 日後 雄二
部員 〈高田〉 小江 雄二
〈別府〉 江崎 恒一
〈大分〉 江粉 亮一
〈佐賀闇〉 上田 雄一
〈臼杵〉 松井 勉一
〈津久見〉 竹田 勉一
〈佐伯〉 長田 勉一
〈佐伯〉 福井 勉一
〈豊後大野〉 島田 勉一
〈竹田〉 田島 勉一
〈竹田〉 江島 勉一
〈玖珠〉 瀧島 勉一
〈日田〉 熊谷 勉一
〈宇佐〉 森崎 勉一

建築士おおいた

2025. 9 No. 135

(非売品)

令和7年9月29日 印刷

編集／発行所

令和7年9月30日 発行

公益社団法人 大分県建築士会

〒870-0045

大分市城崎町1-3-31 AIG大分ビル3F

TEL 097-532-6607

FAX 097-532-6635

建築士 おおいた

本・支部名	〒	事務局所在地	TEL
高田	879-0617	豊後高田市高田 2145 番地 1 (株)中村建材店内	0978-22-2307
国東	873-0503	国東市国東町安国寺 718	0978-72-2887
別府	874-0919	別府市石垣東 1 丁目 9 番 31 号 (株)幸建設内	0977-23-6231
本部・大分	870-0045	大分市城崎町 1-3-31 AIG 大分ビル 3F	097-532-6607
佐賀関	879-2201	大分市佐賀関 4-3341-4 (株)セキ土建内	097-575-1120
臼杵	875-0063	臼杵市大字望月 1029-11 藤澤建築設計内	0972-63-7589
津久見	879-2682	津久見市大字網代 5798-2	0972-84-9622
佐伯	876-0833	佐伯市池船町 19-14	0972-22-5008
豊後大野	879-7111	豊後大野市三重町赤嶺 1922-1 2F 高野建設一級建築士事務所内	0974-22-6606
竹田	878-0026	竹田市大字飛田川 1618-6	0974-62-3711
玖珠	879-4632	玖珠郡九重町松木 4415-2 藤原工務店内	0973-76-3999
日田	877-0026	日田市田島本町 4-1 野村一級建築設計事務所内	0973-24-6022
中津	871-0024	中津市中央町 1-5-24 中津建築会館内	0979-30-9110
宇佐	879-0444	宇佐市大字石田 13 番地の 11 (株)さとう不動産設計事務所内	0978-25-6766
本部	http://www.oita-shikai.or.jp/		

会員増強にご協力を!

~会員二人で、一人の入会勧誘を~



公益社団法人 大分県建築士会